

本年度の 重点目標	『すべての教育活動をビジネスの視点で！』『感動溢れる学校づくり！』 『3 UP！ TOYOSHO！（授業のUPデート、クリーンUP、モラルUP）』 ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 ・創立120周年「伝統校から名門校」へ脱却するにあたり…3 UP！ TOYOSHO！		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項（達成基準を含む）
P T A活動 （総務部）	防災訓練のさらなる 充実と防災に対する 意識の醸成	昨年度の防災訓練時にカード を用いるなど新たな試みを実 施した。反省点を生かし、よ り実践的な訓練を行うことに より生徒の意識を高める。	防災訓練を通し生徒の意識を高める。 A：80%の生徒の意識を高めることができた B：65%の生徒の意識を高めることができた C：50%の生徒の意識を高めることができた D：35%の生徒の意識を高めることができた
学習指導 （教務部）	教科横断的な授業 の展開	公開授業週間に他教科の 授業を中心に参観し、各 自の授業をアップデート する。	他教科の授業を参観し、授業のアップデートを行う A：全教員が授業参観し、アップデートができた B：70%の教員が授業参観し、授業のアップデートができた C：50%の教員が授業参観し、授業のアップデートができた D：50%未満の教員が授業のアップデートができなかった
生徒指導 （生徒サポート部）	交通マナーの向上と 交通ルールへの順守	立番指導や法改正における交 通マナーに関する情報提供な どを適宜行い、通学マナー全 般における意識向上と注意喚 起に努める。	登下校時の通学マナーを遵守する。 A：80%以上の生徒が適切に通学マナーを遵守できた B：65%以上の生徒が適切に通学マナーを遵守できた C：50%以上の生徒が適切に通学マナーを遵守できた D：適切に通学マナーを遵守できた生徒は50%未満であった
生徒会活動 （生徒サポート部）	生徒主体の生徒会活 動を通じて、メリハ リのある学校生活の 充実	代議員会やアンケートで生徒 の意見を集めながら、各種行 事の企画・運営・改善を生徒 会執行部を中心とした生徒主 体で行う。	各種行事の企画・運営・改善に生徒が積極的に参加する A：80%の行事で生徒主体の企画・活動・改善ができた B：65%の行事で生徒主体の企画・活動・改善ができた C：50%の行事で生徒主体の企画・活動・改善ができた D：35%の行事で生徒主体の企画・活動・改善ができた
教育相談 （教育相談部）	問題を抱える生徒の 早期発見と個々の生 徒への適切なサポ ートの実施	教職員の連携と協力体制を構 築する。スクールカウンセ ラーやスクールソーシャルワ ーカーの効果的活用と外部機関 等との連携を強化する。	教育相談に関する様々な情報を発信し、正確な状況把握と分析に努める。 A：生徒自らが教員へ相談し、適格な対応ができた B：正確な生徒情報を把握し、サポートできた C：生徒情報のある程度把握し、傾聴できた D：上記A～Cが実践できなかった
保健・清掃指導 （保健厚生部）	クリーンUPの具現 化、清潔で快適な学 校生活環境づくり	委員会活動を通して、日々の 学習活動の中で生徒一人ひと りが清潔で快適な生活環境づ くりを考えて行動できる雰囲気 を醸成する。	清掃活動への取り組み、クリーンUPへの意識向上がみられる A：全校生徒へクリーンUP意識が浸透し、清掃活動への取り組みが充実する B：多くの生徒にクリーンUP意識の向上が感じられる C：クリーンUP意識向上が生徒の半数程度にとどまる D：現状の清掃活動が維持される
進路指導 （キャリアサポート部）	キャリア教育のさら なる充実と主体的な 進路実現に取り組む ことができる環境づ くり	教職員の連携と協力体制を構 築する。 外部機関、市役所等の地元自 治体とも連携、協力し、適切 な進路情報を提供する。 外部模試等を積極的に受験す るよう指導する。	各学年と連携し、進路情報の積極的な活用を図る。 A：100%の生徒が進路情報の活用ができ、希望する進路を実現した B：75%以上の生徒が進路情報の活用ができた C：50%以上の生徒が進路情報の活用ができた D：進路情報の活用ができた生徒が50%未満だった
図書館活動 （図書館部）	「好き」でつながる コミュニティの創出 と図書館利用の促進	生徒同士がリアルにつながる ことができるイベントを企画 し、図書館利用の促進につな げる。	図書館の利用促進のための情報発信を積極的に行う。 A：図書館活動の情報発信が100%できた B：図書館活動の情報発信が70%以上できた C：図書館活動の情報発信が50%以上できた D：図書館活動の情報発信が50%未満であった
情報管理・情報発信 （教育情報部）	個人購入生徒用端 末の有意義な運用	個人購入生徒用端末の導 入による運用変更につい て、迅速な情報提供や対 応の検討を行い、サポ ート体制の確立を目指す。	教員へ迅速な情報提供を行う。 A：教員への情報提供が90%以上できた B：教員への情報提供が75%以上できた C：教員への情報提供が50%以上できた D：教員への情報提供が50%未満であった

商業教育 (商業科)	対話を通じた多様な価値観の理解と自ら考え判断する力の育成	対話的な学習を重視し、多様な価値観に触れる機会を充実させるとともに、ビジネスモラルを意識した授業を展開する。	対話を通して、生徒が自らの考えを深める授業を工夫する。 A：十分に工夫できた（90%以上） B：概ね工夫できた（75%以上） C：一部工夫できた（50%以上） D：改善が必要である（50%未満）
グローバルビジネス科 グローバルコース	地域社会との関わりを通して学びを实践につなげ、自ら考え行動できる人材の育成	地域や企業、大学との連携を通して、生徒が自ら考え行動し、発信する機会を充実させる。また、ルーブリックを活用し、自身の成長を振り返る機会を設ける。	理論と実践を結び付けながら、生徒がルーブリックに示す力を身に付けられるよう工夫する。 A：90%以上の生徒がルーブリックに示す力が身に付いた B：75%以上の生徒がルーブリックに示す力が身に付いた C：50%以上の生徒がルーブリックに示す力が身に付いた D：ルーブリックに示す力が身に付いた生徒は50%未満であった
グローバルビジネス科 グローバルコース	異文化や多様性を理解し、地球規模で経済を捉えることができる人材の育成	日々の授業で国際問題について探究させるだけでなく、外部講師講話も活用し、国際経済や国際課題についての深い学びを実現する。	授業改善を行う。 A：90%以上の生徒が学習意欲が向上した B：70%以上の生徒が学習意欲が向上した C：50%以上の生徒が学習意欲が向上した D：学習意欲が向上した生徒は50%未満であった
会計ビジネス科	簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材の育成	簿記会計能力の向上に向けて授業改善を行う。検定取得だけではなく、外部講師講話や発展的な教材を利用して深い学びを実現する。	授業改善を行う。 A：80%以上の生徒が検定を取得し、深い学びを実現できた生徒が80% B：80%以上の生徒が検定を取得した C：50%以上の生徒が検定を取得した D：実施できなかった
ITビジネス科	情報活用能力を備えビジネスで活用できる人材の育成	ITの知識を活用した実践的な授業の実現、AIを活用する力を育む学びを実現する。	実践的な授業実現、AIを活用した授業を実施する。 A：90%以上の生徒が実践的な授業に取り組み、AIの活用能力が向上した生徒が80%以上 B：70%以上の生徒が実践的な授業に取り組み、AIの活用能力が向上した生徒が60%以上 C：50%以上の生徒が実践的な授業に取り組み、AIの活用能力が向上した生徒が30%以上 D：実施できなかった
第1学年 (1年学年会)	学校行事などの集団行動を通して周囲への貢献意欲や感謝する心をはぐくむ	愛され応援される人になれるように、挨拶を笑顔で、身だしなみを整え、学習面に対しても自ら考えて学びに向かえるように、適切なアドバイスをする。	学習面の目標を設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：80%以上の生徒が取り組んでいる B：60%以上の生徒が取り組んでいる C：40%以上の生徒が取り組んでいる D：取り組んでいる生徒が40%未満であった
第2学年 (2年学年会)	協調性や主体性を備えた生徒の育成	修学旅行や学校行事を通して「チーム力」や「主体性」を身に付ける機会を与え自主的に考えさせる。	自ら課題を設定して主体的に取り組む。 A：80%以上の生徒が取り組んでいる B：60%以上の生徒が取り組んでいる C：40%以上の生徒が取り組んでいる D：取り組んでいる生徒が40%未満であった
第3学年 (3年学年会)	周りを巻き込む力をもった生徒の育成	仲間と共に切磋琢磨できる環境を整える。特に進路実現へむけてのサポートをする。	進路実現に向けて主体的に進路先を調べる。 A：90%以上の生徒が希望の進路を実現させた B：80%以上の生徒が希望の進路を実現させた C：60%以上の生徒が希望の進路を実現させた D：希望の進路を実現させた生徒が60%未満であった
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件であった B：いじめの重大事態が1件以内であった C：いじめの重大事態が2件以内であった D：いじめの重大事態が3件以上であった
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が45時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	公務等を削減して時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働45時間以上が0名であった B：時間外労働45時間以上が30名以内であった C：時間外労働45時間以上が50名以内であった D：時間外労働45時間以上が51名以上であった